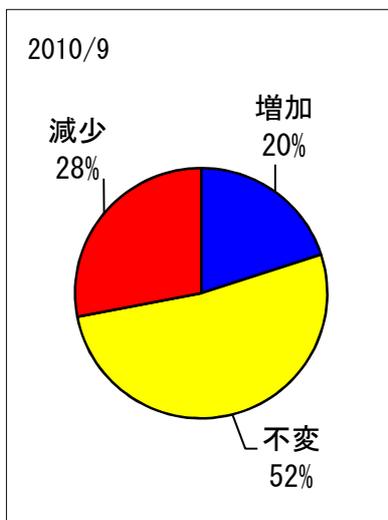
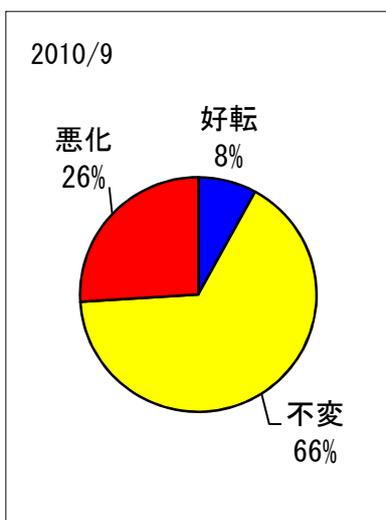


# データから見た業界の動き (平成23年9月分)

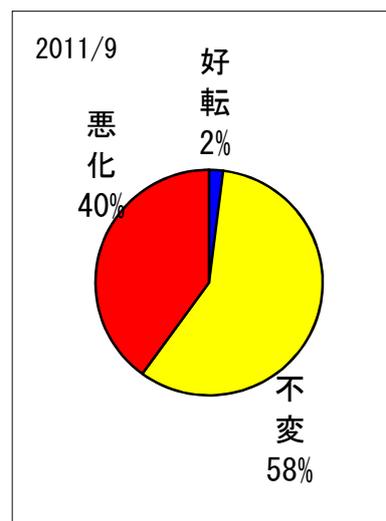
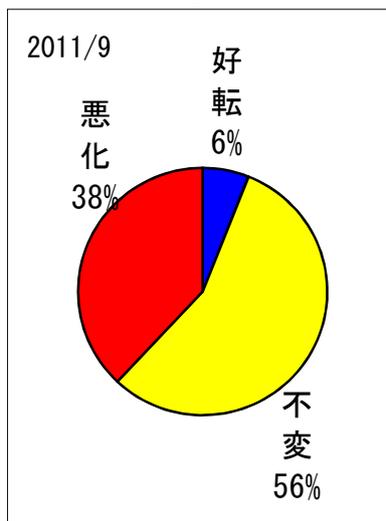
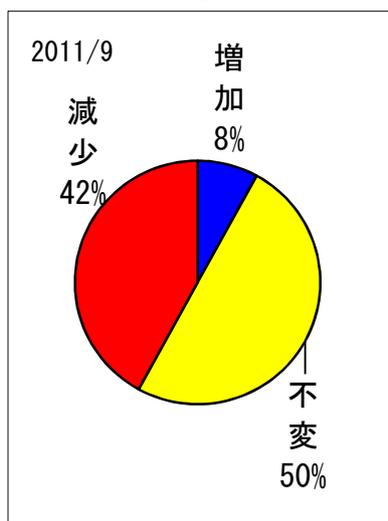
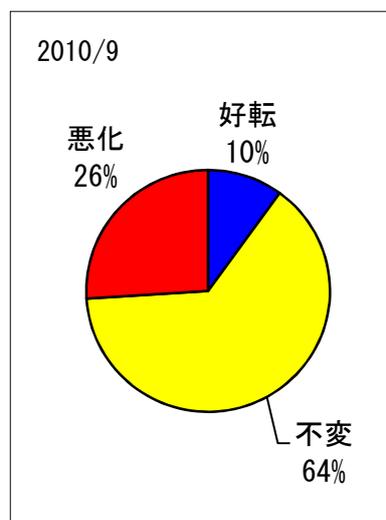
売上高 (前年同月比)



収益状況 (前年同月比)



景況感 (前年同月比)



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

| 区 分       | 製造業  |      |      | 非製造業 |      |      | 合 計    |        |        |
|-----------|------|------|------|------|------|------|--------|--------|--------|
|           | 10/9 | 11/8 | 11/9 | 10/9 | 11/8 | 11/9 | 2010/9 | 2011/8 | 2011/9 |
| 対前年,前月,当月 |      |      |      |      |      |      |        |        |        |
| 売 上 高     | -15  | -30  | -40  | -13  | -40  | -30  | -14    | -36    | -34    |
| 収 益 状 況   | -20  | -40  | -35  | -30  | -33  | -30  | -26    | -36    | -32    |
| 景 況 感     | -15  | -45  | -35  | -33  | -37  | -40  | -26    | -40    | -38    |

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

## ■ 概 況

本県の9月の景況は、全業種のD I値が、売上高-34（前年同月比-20）、収益状況-32（前年同月比-6）、景況感-38（前年同月比-12）となっており、業種別のD I値では製造業で、売上高-40（前年同月比-25）、収益状況は-35（前年同月比-15）、景況感-35（前年同月比-20）。非製造業で、売上高-30（前年同月比-17）、収益状況-30（前年同月比±0）、景況感-40（前年同月比-7）となっている。

全体の前年同月比では、全項目でD I値が悪化傾向にあるものの、全体の前月比では、売上高、収益状況、景況感の全ての項目で2～4ポイントの改善が見られる。

業種別では、製造業の前年同月比は全項目においてD I値は悪化、前月比では売上高のみが10ポイントの悪化。非製造業の前年同月比では、収益状況が±0である以外は、ポイントを下げている。前月比では、景況感で3ポイントの悪化となり、他はD I値が僅かに回復している。

情報連絡員による県内の9月の業況報告では、前月に引き続き製造業、非製造業ともに円高による原材料費等の高騰と海外との取り引き面での影響や先行きを懸念するコメントが目立っている。

また、天候不順や2度に及び台風の影響による業績不振なども多く報告されており、中小企業を取り巻く経済環境は、依然として先行きが不透明な中にある。

## ■ 業界の声

情報連絡員には、景気動向の変化、現状とその背景などについて、業界または組合員全体の動向・予測(売上高・原燃料等経費・資金繰りなど)についてコメントを求めた。

### 【製造業】

- 食料品（水産物加工）／婚礼用食材は、震災の影響で低迷したが回復傾向が見え始めた。しかし、台風の影響で土産品は不調となり全体での売上は、前年同月比96%と低調であった。
- 食料品（洋菓子製造）／8月猛暑の影響で不調だったが、OEMが好転し前年同月比130%と好調。また、自社ブランド製品は、前年並みを確保。全体の売上は、前年度月比107%。しかし、円高メリット以上に小麦粉、砂糖、バター等の原材料が高騰しており採算的には厳しい状況が続いている。
- 食料品（ワイン）／企業の独自による原材料の葡萄の放射能測定結果は、全て値をクリアした。今月に入って国により醸造したワインの放射能測定が始まった。12月初旬を目処に測定結果の発表となる見込み。
- 繊維・同製品（織物）／円高の影響で数年間継続していたアメリカ、カナダ向けストールの受注が無くなった製造問屋(通常時売上高の20%を占める。)がある。中国にはない感性の良い商品製造を手がけるインドにシフトしている様子。20年以上経過しているレピア織機の部品の供給が困難になっている。全体的に受注ロットが少なくなり製造コストは上がっているが、納品単価に上乘せができず収益状況が悪化している。そのため、開発費に予算が出せず新商品開発が困難になっている。
- 繊維・同製品（アパレル）／仕事量、質とも昨年並みに持ち直してきた。しかし、先行きは不透明。
- 木材・木製品製造／3.11以降受注量が減少。暫くはこの状況が続く模様。

●窯業・土石（生コン）／甲府地区の大型物件も一部コンクリート工事は終わり、リニア工事での需要が全体の30%を占めるなか、組合員企業の格差が大きく広がった。また、主要原材料の値上げ、燃料費の高止まりにより収益が圧迫されている。このため、生コン価格の値上げを検討中である。昨年は同時期に大型SC及び土木の需要が徐々に伸びてきたが、今年は土木物件が少ない上に台風の影響で工事が遅延した所もあり大幅な需要減となった。下半期の需要予想は大型物件の進捗状況により徐々に増してくるが、昨年需要が多かった分、前年割れになる見込み。独占禁止法違反による指名停止を受けた業者が2社事業を停止しており、動向を注視したい。

●一般機器／一定の仕事量が確保できないところがある。

●電気機器／コスト競争で、受注の奪い合いになっている。そのため、無理して見積りの作成を行っての受注等、厳しい状況下での経営が続いている。

●その他(貴金属)／いまだに金融品市場の影響による経済市況の悪化に歯止めが掛からない。

## 【非製造業】

●卸売（紙製品）／流通量の減少に伴う取扱量の減少のため競争激化、仕入金額増。今後、人口減、企業の生産拠点の海外移転等による大幅ダウンを予測。

●卸売（ジュエリー）／素材である金、プラチナ等の地金、ダイヤの価格が高騰(前年同月比金126%、プラチナ106%)し製造が困難な状況にあったが、9月後半に地金が下落した。9月1～3日まで開催した「日本ジュエリーフェア」は、震災の影響も懸念されたが、例年並みの売上を上げた。また、9月21～25日開催した「香港フェア」もそこそこの売上だった。バイヤーの多くは中国人のため、中国人の趣向にあった商品開発の戦略が必需。今後は、クリスマス、年末年始用の商品作り販売と繁忙期となるので対前年を上回る売上を期待する。

●小売（振興）／震災や2度の台風等の影響で消費低迷。今後の回復に期待。

●小売（青果）／雨などの天候不順により野菜など入荷減。価格は前月比15～20%上昇。

●小売(食肉)／牛肉の放射能汚染・生食の衛生基準強化等の問題で牛肉の売上が昨対60%まで落ち込み単価の高い商品が売れずに、売上は大きく落ち込んだ。

●小売（水産物）／2度にわたる台風被害により道路等のインフラ被災の影響は、小売業の経営に多大な損害を与えた。

●小売（電機製品）／地デジへの切替から2ヶ月が経過し予想以上の販売不振に見舞われている。県内における前年同月比の売上は、57.7%（量販店57%、地域店58.4%）、商品別では、テレビ44.8%、エアコン36.8%、冷蔵庫89.4%。この落ち込みを他の商品でカバーするには、太陽光発電・LED照明・リフォーム事業の3点しかない。しかし、太陽光発電やIHを中心としたリフォーム事業は、参入業者が多く価格競争も一段と厳しい。また、専門知識も要求されるため一部の会員のみが推進している状況。今後は、講習会を企画し販促活動や合同展示会等を強化する予定。特に、LED照明を中心に販促活動や啓蒙活動に重点をおく。冬商戦に期待するも計画停電以降消費者のニーズが変わり電気が無くても暖房出来る石油ストーブの需要が増える見込みだが、量販店が、大量に買い付けたため地域店への今年の供給は困難な様子。

●小売（石油）／9月は、世界経済の先行き懸念と為替レートの円高ドル安により中東原油が大幅に下落し、県内の石油製品もガソリンを中心に8～10円程度値下りしたため給油所の経営は厳しい状況になっている。平成23年2月1日より消防法が施行され、石油販売業者は平成25年1月31日までに地下タンク漏洩防止対策が義務づけられたため、各給油所は厳しい状況の中で改修工事費用の捻出に苦慮している。10月は、適正収益の確保のために県内各給油所の販売価格の若干の値上げが予想される。

●商店街(1)／治安の悪化が半年近く続いており、テナントへの入居難や廃業など、中心商店街の衰退が加速度を増じてきている。

- 不動産取引／住宅地の販売は順調。事業用土地の販売は、低迷。賃貸物件の賃料は、下降。
- 宿泊業(1)／シルバーウィーク等、2度の連休があったが台風の影響によりキャンセルになった宿も多かった。震災から半年が過ぎ、国内客は、ほぼ戻りつつある。外国人観光客については、県で、外国メディアや旅行会社との商談会、観光展などの開催で、日本の安全、安心の情報提供と風評被害の払拭を積極的に行っているため、今後の回復に期待する。
- 宿泊業(2)／震災後、旅行者は戻ってきた。ただし、前年同月に比べ個人旅行者は回復傾向にあるが、ツアー客や団体旅行客が落ち込んでいる。秋の行楽シーズンに期待する。
- 美容業／相変わらず美容院数の過剰感があり競争が激しいため、単価の安い美容院へと客足が流れている。しかし、固定客をしっかりと管理しているところは、売上も来店客数も常に変わらない。また、北巨摩にある美容院は非常に忙しく、3ヵ月先まで予約が入っている。これまで、繁盛店の話題など聞こえなかったが、忙しい店が出始めたことは、少しずつだが景気は回復してきていると思われる。
- 建設業（総合）／倒産企業もでてきており依然として厳しい状況がある。上期の工事量は、単月では前年比を上回った月もあるが、全体的にマイナス基調にある。大型工事についてもリニア関連、中部横断道関連のものが多く、県内のゼネコン業界への貢献度は今一步の感がある。
- 建設（住宅関連）／新築住宅の引き合いは少なくリフォームも少ない。
- 建設業（型枠）／リーマンショック以降型枠工事の減少による人員整理が行われたため、年末に向けての仕事が増加する中で、人手不足が心配される。しかし、大震災により材料が高騰しているにもかかわらず、型枠工事の単価はむしろ下落しており、仕事はあるものの苦しい経営が続いている。
- 建設業（鉄構）／4～9月の物件数は、前年比50%減。鋼材価格が値上りしており、鉄工所は資金繰りのため、ゼネコンからの鋼材支給の取引が多くなっている。
- 設備工事（管設備）／市等からの工事の発注数、設計単価等も厳しい状況が続いている。地域産業沈滞の問題は、地域全体の活力の喪失にも繋がるため地元企業への優先発注を期待する。東日本大震災の影響もあり依然として厳しい状況が続きそうだ。
- 運輸（タクシー）／前年対比、売上は減少。原因の一つは、1台減車。また、2度の台風により客足が減少。中央線、身延線の不通により駅利用の客も少なかった。
- 運輸（トラック）／荷主各社が中間決算のため、そこそこの荷動きがあったが10月以降の動きは例年になく不透明である。景気は良くない。円高が重なり、ますます悪くなる一方。燃料の価格も気になるところである。